

Japanese Literature

28



舟橋聖士集

〈監修委員〉

伊藤 整

井上 靖

川端 康成

三島由紀夫

〈編集委員〉

足立 卷一

奥野 健男

尾崎 秀樹

北 杜 夫

(五十音順)

學習研究社

現代日本の文学

28

舟橋聖一集

全50巻

分割払価格 39,000円

現金価格 35,500円

昭和45年2月1日 初版発行

昭和48年2月1日 七版発行

著者 舟橋聖一

発行者 古岡秀人

発行所 株式会社学習研究社

東京都大田区上池台4 40-5

郵便番号 145 振替東 142930

電話 東京(720)1111 大代表

印刷 大日本印刷株式会社

中央精版印刷株式会社

製本 中央精版印刷株式会社

本文用紙 三菱製紙株式会社

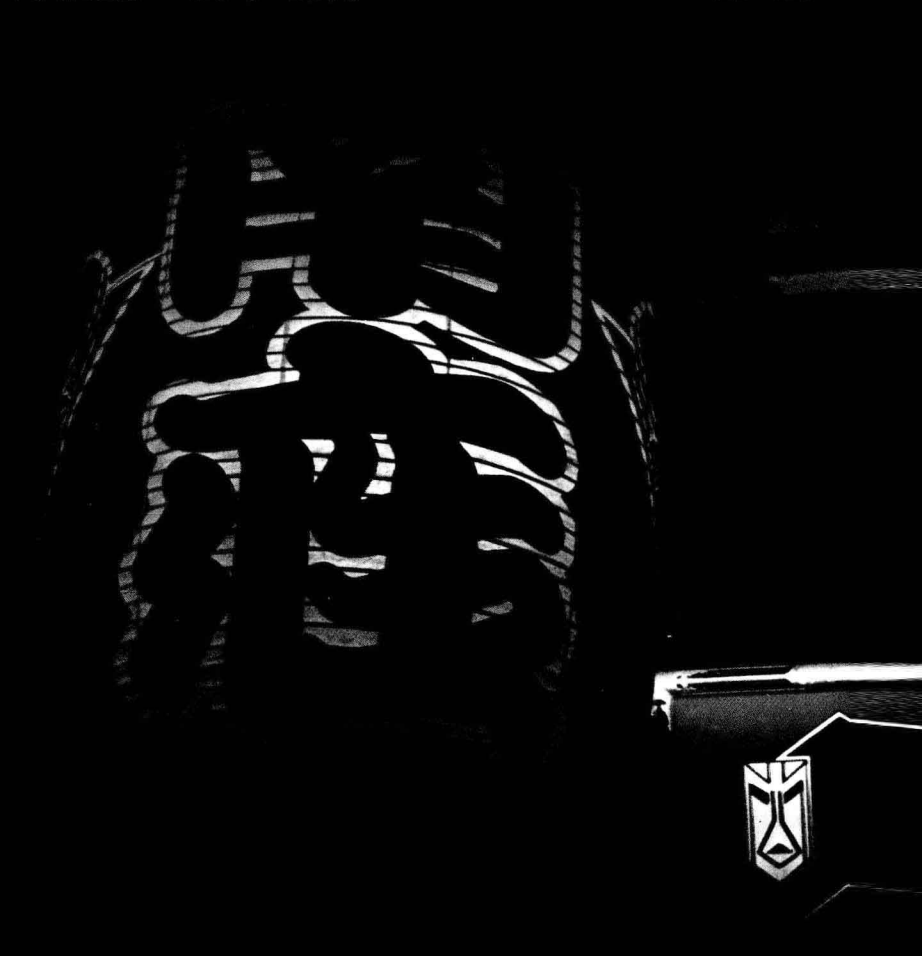
表紙クロス 東洋クロス株式会社

製函 日本紙パルプ商事株式会社

*この本に関するお問合せやミスなどがありましたか
文書は東京都大田区上池台4丁目40番5号(〒145) 学研
「ユーザー・サービス本部事務局」現代日本の文学係
電話は、東京(03) 720-1111 内線352,353か、東京(03)
727-1600へお願いします。

舟橋聖一文学紀行

京都 南座



お多をうつれて、大阪まで
心斎橋や道頓堀、京都まで
祇園から田山のへんを歩
てみたら、やっぱり、背を
を振りがるられるにわか
ない。でもこれだけの女は
世方にもさう、めったに
おつてゐるはずもない。あ
は南座へでもいって、鍾
に納まろう。春は早稲田



夕から宵へかけて、大川は殊に美しかった。兩岸の灯が、チラチラとつきはじめ頃、一錢蒸気の通ったあとの大きな滞は、濡れた錦紗縮緬のように、艶っぽいぬめりを見せた。

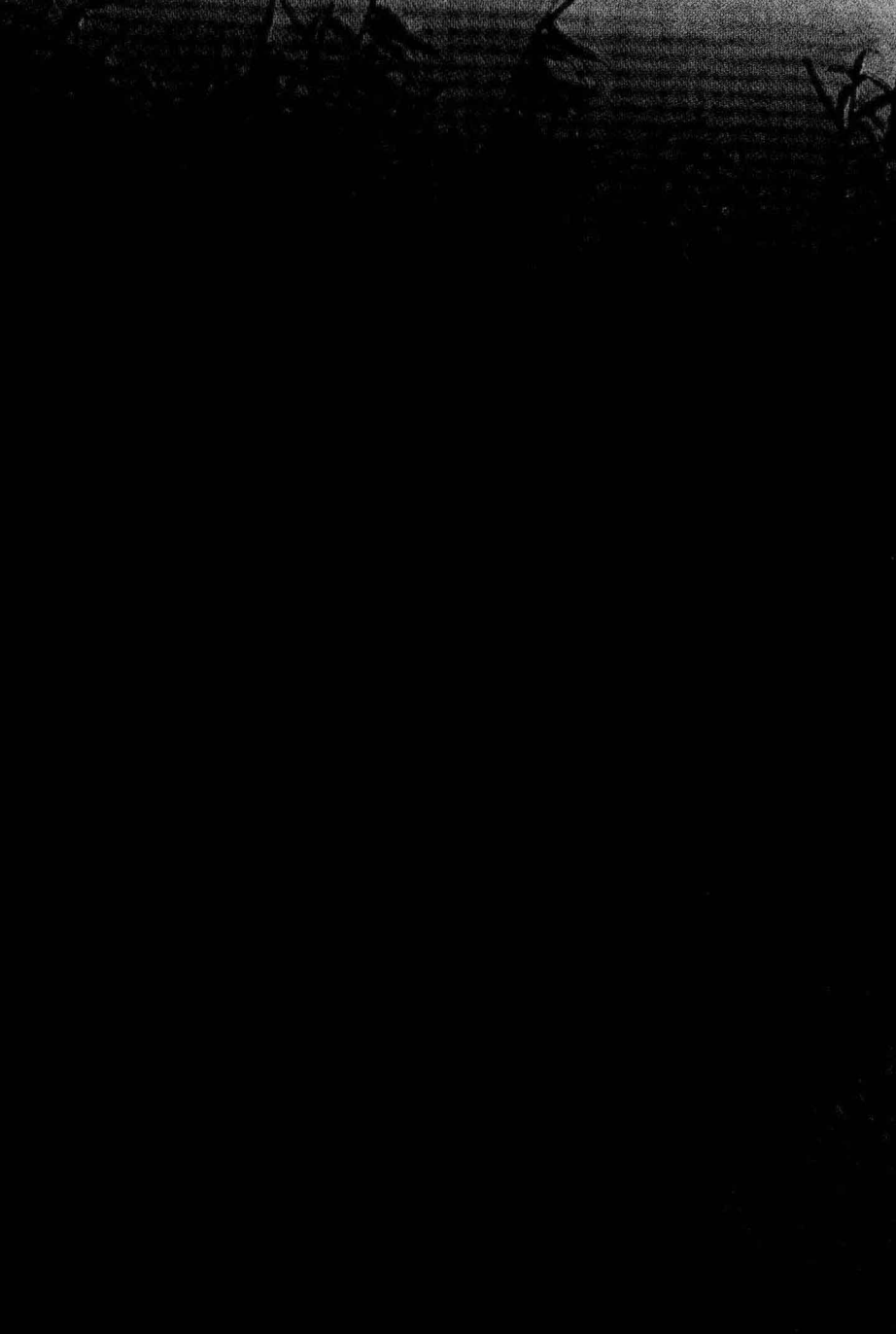
大川 永代橋（川音）

「駄目じゃねえか。あすこでおめえ、捲返されちゃったんじや、折角の立合が、ふいになっちゃまうじやないか、ふところが甘えよ、まだ、まだ」

高砂部屋（川音）









大洗海岸 磯前神社の朝

ときどきは、大洗や磯浜まで商売に出ると、帰りにはやなぎ鰯イサナの塩や、生鰯イサナを買って戻った。鰯の刺身などというものは東京では食べられないものである。

（悉皆屋康吉）

磯浜の漁村





此为试读, 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

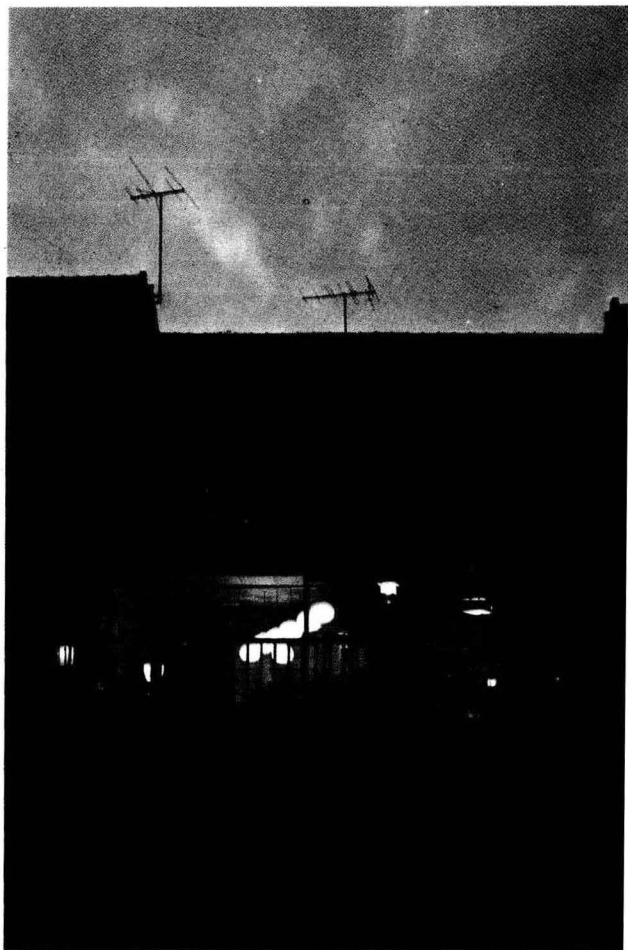
康吉はお喜多を伴れて、京の旅へ出た。むろん、康吉のことだから、物見遊出だけではなかった。……お喜多にも、立つ前からそのことは、懇々といひ含めておいた。しかし、それにしても、新婚旅行を割愛した康吉は、女をつれて、長い旅に出るなぞということは生れてはじめてであり、大人気なく、胸がはずんでならなかった。

京都 八坂塔（悉皆屋康吉）

二人は、三条辺の小さい日本宿屋に引移った。結局、ホテルは失敗だった。――二階の障子をあけると、鴨川がすぐ前に見え、対岸の灯が、なまめかしい色をうつした。

京都 三条大橋（「悉皆屋康吉」）

三条 鴨川畔の夜







空はよく晴れていて、この分な
ら、長尾峠のトンネルを出たと
ころにある見晴し台からの富士
山は、よく見えるだろうと、思
われた。

(「エネルギー」)

湖水の真ん中よりは東寄りに、
ほんの一にぎりの小島があつて、
青い月光の下に、背中をまるく、
うずくまっているように見える。
木沼は、今までより、ずっとピ
ッチをあげ、權をギイギイとき
ませながら漕いだ。

河口湖 鵜島(「エネルギー」)

